

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

一九七〇年代に入る頃から保育園や幼稚園に障害のある子を受け入れて、健常児の中で保育する取り組みが増えてきました。そこで、障害児の見方、発達段階の把握、発達を促すための保育の内容や方法、障害児と健常児のかかわりなどについて保育者といっしょに考え、助言する専門家が必要とされるようになりました。ある自治体はそうした専門家を嘱託として招く、別の自治体は療育センター等の職員を活用するというようにちがいはありましたが、巡回相談員、巡回指導員といった人びとを保育園等に派遣するシステムがつけられました。私の場合、合計すると十数年間、こうした活動にたずさわりました。

その中で経験したことです。自閉症の子の担任の報告の中に、「この子は場面に関係なく、かなりひんぱんに、いつも同じコマージュルの歌を歌うのです」というのがありました。

私は何気なく「自閉症の子ならよくあることです」と対応し、その後もとくにこのことについては考えませんでした。ところが、二カ月ほどたつて同じ園を訪問したところ、担任は思わぬことを語りはじめました。

「あの歌があの子にとって意味があるのだということがわかったのです。たぶんまちがいありません。イヤ！と言いたい、拒否したい、そういうときにあれを歌うらしいのです」。

私は、「どうしてそう思ったのですか」と聞いてみました。

「私自身、これまでずっと場面に関係なく…、と思ってきましたし、先生（茂木）も『そういうものだ』と言われたけど、あとでふと、でも、ほんとうに場面に関係がないのだろうかと思つたのです。そこでとりあえず、あの子が歌うたびにメモしていつてみたのです。そうしたら、自分にとって嫌なこと、不得意なことを強制されそうになると、あの歌を歌うのだということが、わかつてきたのです。

たとえば給食のおかず嫌いな食物が入っているのを見ると、すぐに歌い出す、苦手な鉄棒に誘うと歌い出す、担任が手をつないで集団活動に参加していて、もう外れたいなと思つたときに、私が気づいて手をギュッと握って引き止めると歌い出す、こういう具合なのです」（著者注——自閉症児は、ブランコやトランポリンなどいったん覚えてしまえば、あとは同じ運動であるべるものは没頭するほど好きですが、鉄棒のような完全な固定遊具で、運動を自分で随意的にコントロールしなければならぬものは苦手だということが多いのです。）

この自閉症児の中で、「拒否」と特定のコマージュルの歌がどこどのように結合したのかはわかりません。しかし、たしかに彼は、この歌を歌うことによつて、したくない、食べたくない、ここにいたくないということを、彼としては明確に表現し伝えようとしていたのです。

他の人も、自閉症児のこれと似たような表現とコミュニケーションの方法を発見することがあるでしょう。だから、こんなこと取り上げるまでもないと思う人もいるのではないのでしょうか。しかし、私はそうは考えません。

教科書的なもので学んで、それがいつも正しいと無意識のうちに受け入れ、そのフィルターで子どもの事実を見る。この例では、私自身がこういう枠にはまってしまうていました。

もちろん、これはいつでも正しくないということではありません。しかし、「ちよつと待てよ」と立ち止まり、まずは事実をもう一回たしかめ直してみる、同じ事実でも、そのもつ意味が「常識」とはちがうのではないかということに気づく…。これこそ現場の実践者も科学するのだという一つの例であり、研究を専門とする者も、この発見に学びいっしょに考えることが大事であることを示しているのではないかと思うのです。

（茂木俊彦『発達保障を学ぶ』全国障害者問題研究会出版部、二〇〇四年）

*自閉症は、二〇一三年に刊行されたDSM-5において、これまで早期幼児自閉症、小児自閉症、カナー型自閉症、高機能自閉症、非定型自閉症、アスペルガー症候群、特定不能の広汎性発達障害、小児期崩壊性障害と呼ばれていた障害と共に、自閉スペクトラム症へ包括されました。

二〇二四年度 同朋大学 社会福祉学部
学校推薦型選抜（公募） 小論文 問題用紙②

問1 文章を読み、二〇〇字程度で要約しなさい。

問2 傍線部「そうしたら、自分にとって嫌なこと、不得意なことを強制されそうになると、あの歌を歌うのだということが、わかってきたのです」という記述において、実践者は子どもが自分のやりたくない、つらいと思っていることを強制されると歌い出すことに気づいた。福祉実践の中で、子どもや高齢者等の利用者が嫌なことや、不得意なことを強制されそうになって嫌がっている姿をどのように考えますか。そして、どのように対応していくことが良いと考えますか。あなたの意見を六〇〇字程度で述べなさい。